

自分のためではなく、人のために

国際教養学科 1 年 細川友梨



私たちは 1 月 23 日(月)に、「学生が『地域』で学ぶことの意義」というテーマのもと、報告会を行いました。この会は、「地域」を拠点に活動してきた、福津市インターンシップ、一風堂 CSR インターンシップ、NPO 法人循環生活研究所サービスラーニングの参加生が合同で行ったものです。活動する中での困難、そしてそれをどう乗り越え、何を学んだかをプレゼンテーションで伝え、さらにパネルディスカッションという対話形式の手法を用い、それぞれの現場の方と学生が一緒になってテーマを深めました。



▲プレゼンテーションを行う諏訪知優

福津市からは福津市役所職員の山下真智子氏にご登壇いただき、福津市インターンシップ参加生からは環境科学科 1 年の諏訪知優が登壇しました。

私たち福津市インターンシップ参加生は、「自分のためではなく、人のために行動する大切さ」を伝えました。私たちは福津市に何度も足を運ぶ中で、福津市の方々の自分のためではなく地域の人たちのために行動する姿を見ました。その姿を見て私たちも人のために行動したいという思いが芽生え、福津市の市民講座である郷育カレッジ講座の一枠をいただき、1 月 10 日に本学にて講座を行いました。

しかし、この講座を行うにあたって、ひとつの困難がありました。せっかくチャンスを提供いただいた郷育カレッジ講座の一枠をむだにしていまいそうになったのです。この原因は、私たちが協力してくださる方のことを考えず、勝手な行動ばかりとってしまっていたことでした。その際、私たちの担当教員である和栗先生が、私たちが自分たち自身の行動を見直し、実施できるのかどうかもう一度自分たちで考えるチャンスをくださいました。そのおかげで、無意識のうちに自分たちが身の回りのことを当たり前だと考えていたことに気づくことができ、私たちは福津市インターンシップ参加生の一員だということ、そして福岡女子大学の一員であるということを意識することで、自分たち自身の行動に責任が持てるようになりました。



▲パネルディスカッションに登壇する
山下真智子氏

人のために行動すること。私たちが福津市で活動をしてきてこそ得た学びです。これからは本学の一員として、本学をもっとよりよいものにしていきたいです。